

バストス週報

第八三四号
昭和四十一年
四月廿九日
発行
DIRETOR
KOTI MORI
REDATOR
SHION ODA
RUA PRES.
VARGAS 188
C. POST. 112
FONE. 40
BASTOS
C. P.
ANUAL
CR. \$
4.000

青嵐 15

移民事業の曲り角

桑原竹治郎翁といえは本年八十七歳、今回で八回目の渡伯を敢行したという変り種である。バストス移住地が開設され在日各果の海外移住組合から統々と移住者を送り出せんとした頃、桑原氏は遠早く和歌山県下の移住者十三家族と共に一九二九年（昭和四年）六月七日ラブラマ丸で渡伯した。この時バストスへ入植したのは岡山県人五家族を併せ計十八家族であった。去る四月二十日バストス草分會員二十六七名がG-1区桑原久治郎氏方へ集合して桑原竹治郎翁の歓迎会を開き往時の思出話を語り合った。

三十八年前壮年桑原竹治郎翁が団長で一行はサントスからソロカバ十線ワタ駅に送られたが、駅につくと、現存の山中三郎などがカミニオンで迎えにせ、その夜はホテルに宿泊。ホテルというから、どんなにか立派な堂だろうと思つて、何しろ一べんに百人近く、二三人カマミニオンでは足りない。廊下にコルシオンを敷いてゴロ碌の淡い夢を結んだ。翌日はリオデジャネイロの坂を上って夕景バストス入りを見た。道路が悪くて途中カミニオンが転覆したとかせぬとか、その時の運命をつかまなかつたのか、山中三郎だとか、おいぶんと面白い思い出がはまんだ。第一ブラジルへ洋行した彼等は目的の地へ行くのにトモベレでのりこむつもりであったのに、五台のカミニオンに荷物と一しよにほりこまれて移住地入り。一番のりしたことは、今考えて見れば、当り前な話にもなるまいが、往時はそんなことも、国策移民の誇りを傷つけられた思いであつたらう。山中氏の追憶によると、相中翁から厳命が到着する。何月何日新来植民者二十何家所を作れ、米を何十俵確保せよ、野菜がないと困るから種をまけ、いよいよ到着した。食物を提供せよ、風呂に入られる用意せよと各班を作つて分担して、いたるところ五十名近いソルテイロが居た。そうである。日本直来の人たちも色々びつくりしたことであろうが、受入体制は、汲ぐましい程とのつていたのであつた。

○南へトナムの佛教徒と学生蜂起でワマニ重内戦という、すえでのところ、一時危期を脱したようだが

HOTEL "USSAMI"

○結局はキ内閣に信望がないんだね、実にきわどいことをやるもんだ。

○これを見ても南は北に勝つて相もなないね。

○歯が痛いようだが、

○どこでインフレでどう？

○まア、どうやうです。

○ところで、「ウサミ」うまい？

○定連だからうまいさ。

○毎度ごひいきに！

うさみ



Sapataria Bastos

紳士靴 婦人靴
学生靴 子供靴
運動靴 労働靴
革製品一切

安くて良い品ばかり

バストス
早川靴店

FONE. 55 C.P. 159

桑原竹治郎翁は昭和初年頃の不景気打解策として叫ばれていた海外移住政策に和歌山県民も是非協力すべきだと考へて、識者の論議にのぼり始めた頃、あつた。識者の論議にのぼり始めた頃、あつた。識者の論議にのぼり始めた頃、あつた。識者の論議にのぼり始めた頃、あつた。

民として家族兄弟などを既に送り出して、
 いる苗字家族はどちらかといつと肩見か
 狭い思いをしていたものである。貧乏や
 よって外国へ出稼ぎに行つてゐる。といふ
 経済劣等感があったのである。一人頭五
 十月の仕度金を下付され、渡航費は只と
 いう恩典があつたので金持ち階級は、け
 がらわしいと相手にしなかつた。
 そういふ空気の中心で当時赤松村の村長
 をしていた桑原竹治郎氏が、弟の久治郎
 夫妻、長男の次郎氏をづれて渡航を代表
 した時、村長さんが渡伯しなされるとい
 つて大評判となり、爾後の移住勧誘に大
 変好都合であつたといふ。
 かくしてバスターズの植民第一号になつ
 たが、新は次の計画実行のため、すく日
 本へ引返し、桑の移住係員として戦前迄
 和歌山県の移住者の渡航斡旋をし、戦前五
 回、戦後三回の渡伯を教した。
 戦後大きく和歌山県人を移住せしめた
 のは麻州の松原耕地である。トラードス
 市から六十キロもはなれ、耕地入口の交
 流には橋もなかつた時代であり、入植者
 は想像以上の困難にぶつたが、桑原
 翁は、自分の責任のように入植者の不安
 をきづかい、前回(三年前)のように入植者
 一軒々々訪問して労をこらしたといふ。
 同じ麻州トラードスから六七十里の距
 ったところ、和歌山植民地といふのがあ
 り、開拓六七年の新天地に十五六家族が孤
 立生活をしている。ここへも翁は定をの
 はして訪問したが、この村の人は自給自
 足の暮しをしてゐるが前途に希望がもて
 ないといふので、何とか他に土地を見つ
 けて再移住させねばならぬだろうとの事
 である。翁は戦後の移住に對して、これ
 までのイデオロギイと違つたものを考え
 させられた。
 今日では移住をしようとする仕度金
 渡航費が相当かかる上、百八十万円(五千
 ドル)相当の見せ金が必要とする。とてし
 ない貧乏人ではブラジル移住は及ばないので
 ある。
 氏はブラジル九で昨年十二月神戸出帆
 本年二月十三日サントスに着きました。が
 昔とちて蚕棚の雑魚森もありません。食
 事も洋食だし、ほんとに洋行気分です。
 二人な人達が四十年前奥地へ入り込んだ
 先輩移民のようには、マツヤードを振つてマ
 ットの伐採ができるやろか、昔話のモジ
 アナの珈琲園コロノがつとまるやろか、
 こう考えます時、移民の姿とか目標とか
 云うものももう往昔の眼で見えてはいかん
 考えを改めてかからねばならぬといふこ
 とをしみみ感じました。

日本人のお役人は、恒日時の間にヒコ

キでブラジルを空から視察し、ブラジ
 ル移住の在り方などの報告や意見書を上
 した。当局ではそれを参考に移住対策を立
 てる。といふたような現状である。
 桑原翁は四月下旬飛行機で帰朝される
 が、この二ヶ月に老躬に頼りつて、麻州ハ
 ラナ州、聖市郊外、ノ口線ハワリスダ線
 と席の温まる暇もなく視察して歩いた。
 自分の世話をした移住者たちが、あつた地
 この地で思い思ひの仕事を打ち込んでい
 る姿を見、当局への希望をささげ、将来の
 見遠しを語つてもらう大変参考になつた
 と述懐してゐる。
 マットを伐り開くだけが植民者ではな
 い。荒蕪地や再生林を復活させて色々な
 事業のできることも、技術移民のことも、
 ハ十七翁の頭裏は新しいプランでいっぱい
 であるらしい。
 「移民事業の曲り角といふことですか、
 耐力のある健全な移民を招くといふこと
 でしょうか。」
 幸いにしてあなた方先駆者は現在の地
 盤を築かれましたが、どうか後輩の進出
 のために何分の御力添えをお願い致した
 いものです。

花まつり

青年会に御案内

来る五月八日(日曜日)

午後一時から 灌漑佛法要

引つづき 青年向大講演会

講師 南米教 監督 瀬辺澍 先生

ポフルデンテ南米車頭寺南教師

渡辺文昭 先生

聖市日語編集部 加藤 女 史

青少年諸君並びに皆々様

バスターズ 南米本願寺

五月八日 夜七時半より

説教所開設十周年記念

開所記念 奉讃演芸会

花まつり 団体出演 個人出演

飛込歓迎

聖市乃ルボンツエーノ街二一二番七階

発売元 遠藤貿易株式会社

スーパ味

たべもの屋巡り

下町レストウラン

浅草の「ねきし」



Tempêro de Alta Qualidade
Glutamato de Monosódio 99.9%
SUPERAGI

浅草には洋食屋という店はあるが、レストウランといふ感じの店は少ない。ここは小ぢれな構えである。推奨品としては、ピフラーキ五百円、トンカツ定食二百五十円、ハンバーグステーキ、カレーライス各百五十円、エビフライ二百五十円、カキフライ二百円、エビピラフ(焼飯百八十円)、チキンマカロニグラタン百五十円、スパゲッティ、イミートソース百五十円、ポターージュ百円、その他、千前十一時までモーニングサーブスでホットドッグとコーヒで百円、カレーライス百二十円、スパゲッティ百円とある。

料理はうまくて安いに限ります

スーパは、それにピッタリ。

どの店にもあります



訪日見聞録

紀南泉都めぐり A

小沢 勇

椿駅を過ぎる頃所々に梅の満開す

るを見て流石に本州最南端の地であるわいと感心した。汽車は七十二人乗り十輻連結の最新型。乗心地は先ず満点である。紀伊勝浦に下車すると宿の名を染めぬいた旗を手に手に多くの客引きが迎えに出てくる。ホテル望海に投宿、床の間に夢の穂と茶種の花の生花があった。

勝浦は温泉が各所に湧出する大きな入江で大小の漁船数百に碇泊して大建物が散在し、海岸には五階八階の往復する湯治客も多いという。自転車で来たガイド嬢に迎えられる。二百米呈徒歩で海岸に行き三十人乗りの船の松島巡りの船にのる。船は忽ち白浪を蹴立てて狼煙山の突端を過ぎ、鶴島の洞門を通過して山成島を迂回する頃左手にノルマントン号遺跡の石碑を見る。この辺の島には幾何とも知れぬ奥深い岩窟の海辺に並ぶ

があり、又島の壁煙から温泉が海に

流下するあり、湯量の程も思いやられる。紀の松島といわれるだけあって、獅子岩ラクタ岩等々大小魚数の島々は奇せまは返す黒潮の渦巻く白浪に反映して美観云うばかりなく、船かくし付近に於て絶頂に達す。みちのくの松島を女性的とするなら、此処は男性的で雄大で何となく荒削りの感か深い。遙かに雲湖の水平線を望見し、ついで一時間向の後船は港に碇した。勝浦はよど整った町である。美しい土産物店など見物しながら宿に帰る。

二月五日、宿の車に送られてバス停前所に行くと、親切な案内人は那智の滝、妙法山行き、の切符を買ってくれた。二台おつ三十分間隔で出発、六十人乗りのバスは満員でその中に八組の新婦さんも見えた。車の進むにつれ山奥の人は次第に何を生業とするのである。う、両

の植林多く又梅の古木が、この咲わしい所に沢山満開の花を咲かせ、芳香馥郁と車窓を訪す。枝を深挿難所を越え、やがて日本一の石湯那智の滝に迫る。千古の大杉鬱蒼たる道を進むこと約二百米にして滝壺の下に出る。神代木

がらの原始林から下三三米の大飛瀑は響音元に轟き地軸をゆるがす。飛沫は雲煙となつて陽光に輝き、壯絶正に言語に絶すとはこのことであろう。これは第一滝で、此の上流に

に才ニ才三の滝があり、その他合計四十
 八もあって那智四十八滝と称し、夏季の
 瀧巡りは男性湯仰の的であるといふ。山
 の峻峻なること言語に絶すること、男運
 にとつて魅力なのであろう。
 霊境の那智大社に詣で神霊に接す。此
 の神社は本宮新宮と合せて世に熊野三社
 と称えられる。車は妙高山に向う。途中
 山谷に地蔵尊が祀つてある。バスガール
 は「此の峻峻な曲折の道で未だ一回の事
 故もないのは此の地蔵さんのお蔭であり
 ます」といって合掌した。

バスは熊野権現速王大社下に停る。五
 六軒の土産物店が両側に並んでゐる。店
 の娘に竹枝を渡され石段を上る。五百段
 もある石段の登降は一苦勞であつたが登
 り詰めた処、社殿な社殿で思わす合掌三拝
 した。那智大社と共に熊野三山の一とし
 て古往より民の尊崇を集めた地、武大社
 である。主祭神は熊野速王大神で神倉山
 に祀られて居たが景行天皇の御宇此の地
 に移されて信仰の中心となつた。宝物殿
 には幾多の国宝が保存されてゐる。右
 廻ると西国第一番の札所青岸渡手があ
 り奥殿から幽かに御詠歌の合唱が流れて
 いた。沈心閣より手近かに那智の大瀧
 を望み思わす数度シヤマリを切る。海抜
 千四百米の妙法山の奥に真言宗の古刹と
 して著名な熊野妙法山阿弥陀寺に詣る。
 閑寂幽邃の仙境にただ瞑目合掌。日本一
 の一飛瀑に那智山、妙法山の霊域に俗塵
 を洗い、神社仏閣に心を清めて淨心閣
 達、心気爽快な気分を下山の途につく。
 二月六日朝日に踊る金波を眺めつつ木
 テルを出発。大平洋の黒潮から渡つてく
 る暖かい風オゾンに富んだ海気を胸一ぱ
 いに呼吸しつつ坦々たるアスファルト道路
 を十六料の新宮市に向つてバスは走つて
 いる。

新宮市は人口四万三千、紀南随一の大都
 で和歌山縣と三重縣とに跨り熊野大橋
 の中間が果境となつてゐる。市の大部分
 は和歌山縣である。市内の東西に二つの
 大製紙工場がある。有名な熊野杉を原料
 として紙を造つて居り市内は活気に充ち
 満ちて居る。此の付近は海浜道路がある
 ためトンネルが多く、その難工事の程察
 する余りあり、バスの停つた熊野川原に
 はプロペラ船やウエーターセツト船が沢山
 浮んで居る。皆同形の三十人乗りで中に
 は座布団が敷かれ荷物も積む時は座布団
 と黄座を取除けはいいように出来てゐる。
 一紀伊の国は音魚し川の水上に立たせ
 給ふは千五山、と唄に名高いおとな
 し川の熊野川を潮行すること五十料瀧(と)
 八町に向つて船は瀑音高く白浪蹴立てて
 道みに進む。プロペラの轟音に消されて
 バスガールの説明も判らぬ隣同志の談話

Foto Shimamoto

バストス警察署御指定
 カルテイル、イネンター用フォト
 指定寫真機

きれいに
 うつる
 いきく
 うつる
 すてきに
 うつる

フォト島本

日本式 フラジール式

記念碑
 石燈籠
 石彫彫刻一切

既成墓石の修理もいたします
 アタマンチーナ市AVリオブランコ

御披露上

大西石碑工場

大西 文吉
 電話 五一五
 郵便 三

PHONE. 63

Fabrica de Granito

大西石碑工場

御披露上

大西 文吉
 電話 五一五
 郵便 三

も聞えず、ウエーターセツト船にのつた方
 がよかつた。その後悔したがあとの祭つた
 只兩岸に莫々と見ゆる紅梅白梅椿の花
 に魅められぬのみ。峻峻な山が兩岸に迫
 る人煙まれな仙境を十津川の合流点に達
 したのは一時間半の後であつた。これが
 ら又一時間半にして漸く音に名高い瀧峽
 に達す。その間に炭坑のあつたのには驚
 いた。

船は速力を落とし或は停船してガイド
 嬢の説明を聞きながら天下の奇勝を探る。
 瀧の成因は地理学的では瀧の後退した
 のであつて、氷間の水蝕によつて岩の段
 階が消滅して遂に深い淵が出来たものと
 説明して居る。川中の狭い所は五十米位
 兩岸は切り立った断崖絶壁數十米の高さ
 に聳立ち、澄み切つた幽谷の水は深き
 二三十米、紺碧の深潭はどこまでも続く。
 獅子岩、猿轢岩、石人峯、鳥帽子岩を
 の他さまさまな奇岩があり、中でも龜岩
 狗岩、柘葺岩を三奇岩として造化の妙を
 たたうるはかりである。

瀧跡は上瀧二十八ネ口下瀧三ネ口から
 成り、上瀧の終るあたりの冲天高く太古
 のままと思われる吊橋のかかつた様はえ
 らぬ眺めであつた。(以下、次号につづく)

日	平均気温	湿度 ^計	湿度%	最高気温	最低気温	降水量mm	風向	天気	雲量
1	28.0	23.0	60	34.0	22.0	4.1	E	○	1
2	27.0	23.0	66	33.0	21.0	9.0	NN	①	3
3	25.0	22.0	73	33.0	20.0	1.0	NN	①	5
4	26.0	23.0	73	31.0	21.0		NN	①	5
5	25.0	23.0	81	29.0	22.0	1.3	NW	①	8
6	24.0	21.0	72	29.0	19.0		WS	①	6
7	23.0	19.0	63	24.0	17.0	1.6	S	①	6
8	22.0	19.0	71	28.0	16.0		EE	①	4
9	22.0	19.0	71	28.0	16.0	2.0	EE	①	7
10	23.0	20.0	72	30.0	15.0		SE	①	5
11	26.0	22.0	64	31.0	15.0		EE	○	
12	28.0	22.0	53	32.0	15.0		EE	○	
13	29.0	22.0	48	35.0	15.0		EE	○	
14	28.0	23.0	60	34.0	19.0		FE	○	
15	29.0	23.0	54	34.0	20.0		FE	○	
16	29.0	24.0	60	34.0	21.0		FE	○	
17	29.0	23.0	54	33.0	17.0		NE	○	
18	28.0	24.0	67	35.0	18.0		NE	○	
19	30.0	22.0	44	34.0	18.0		FN	○	
20	29.0	22.0	48	34.0	17.0		FN	○	
21	28.0	23.0	60	34.0	20.0		NN	○	
22	24.0	22.0	81	31.0	22.0	3.2	WN	○	5
23	25.0	22.0	73	26.0	21.0	0.5	NN	○	9
24	25.0	23.0	81	33.0	20.0		NN	①	3
25	26.0	22.0	66	32.0	22.0		NS	①	
26	23.0	21.0	80	32.0	20.0		SN	①	
27	24.0	21.0	72	27.0	20.0		NE	①	
28	21.0	18.0	70	27.0	18.0		FE	○	
29	26.0	22.0	66	33.0	18.0		FE	○	
30	26.0	21.0	58	33.0	18.0		FE	○	
31	27.0	22.0	59	33.0	20.0		S	○	
平均	25.9	21.8	65	31.4	18.8	計109.3			

茶人奇行伝聞 3

宮武勝南

紀州侯藩邸に一尺五寸角ほどの茶道具箱が家宝として伝わっていた。箱蓋には「銘付不姓者」とある。千家裏流は二世三世と久田流家元から養子を迎えた。三世宗左覚々斎原叟も久田宗全の三男として生れ、表二世宗左の女婿となつて三世を嗣いだ。表流は代々紀州侯に仕えて二百石を領したが、宗左も召されて江戸の藩邸に在った頃のことであらう。日頃水指しが小さくて度々水を汲みに行くのが面倒だと悔やんでいた。ある日のこと、將軍吉宗に招かれて江戸へ出た土肥三三、清水道平、岡田宗伯等が宗左を藩邸に訪ねた。宗左非常によんで彼らを茶席に招いた。一と通り茶菓も終つた時に長老土肥三三翁が「とき宗左殿台子に荘られた巨大なる壺は何の呪いでござらう。悪魔かつかつて見かけぬ茶法、包体何に使用なされまします。宗左これに答えて「こうんの通り水指に使用いたしました」

と、二三翁かきねて「普通の水指と形の上には、今日は変りませぬな」。この時岡田宗伯「表流では普通の水指を水差しに使用するのが定法でござりますか」。宗左笑いて「古来より名物水指とはオランダのものを最上と致して居ります。これらもみな紅毛人が食卓に置く塩壺とか食油壺のたぐい。交易商人と茶の湯水指用として輸入したものと承ります。これは国内産の水壺が水指にならぬという法は、よもござるまい。只今使用致しましたる茶碗も縁日に二東三文に買いましたる農家用の湯飲。名器名付も名匠によつてこそ生じるもの。これらがらくた道具も、かく申す宗左には似合ひの器。また貴人の饗応には新しき道具こそ最良となすは、これ表流の作請第一と致します。と答えた。二三翁「しかうは、その壺の銘は？」。はい不姓者と銘じました」。享保五年二月二十八日京都不審庵に於て利休の百二十年忌の茶会が催された。又網見疎安宗匠(八十五才)野田時翁(六十五才)等も招れて席入りして驚いた。正客席に坐つて居るのは、まさに宗左夫人であつた。

世界の
経済鶏



バブコック

養鶏で成功するには、まずピントを↑

ピントはバブコックB3が世界です

バブコックは強いピントで死亡率が少ない。高温多湿の
奥地に適している。

年間を通じて、三〇〇卵産む 八割以上
卵質が良く A A A型が多いから市場のねだ人がよい

エンセファロミツテの予防注射がしてあるから脳髄脊炎膜
病が出ない

バブコックを飼う人は全部 儲けて居られます。
伯国一手販売

産業組合中央会

各地に取次人あり

聖市ルアヌ アルファン デイガ
電話三三七八二〇 郵便二九八六
487

Babcock

立ち上がろうと頑張っている。そこへ
あるけ！と幽霊の比喩の音がかかる。
その老人は声に激励されて前のめりに
四五歩あるいた。見物して人々から嘆息
が湧いたのは去うまでもない。
漢口幽霊の術は気合術といっていた。
それは患者を叱りとはすように気合をか
けるからだろ。その老人が一週間後には
再び歩けなくなると聞いたが、その
時は、たしかに歩いたのであつた。
これらは、何であらうと奇蹟にちが
いない。それは五十年前の話だが、
その他今日、さる新興宗教の教祖をお
がみに行って感激のあまり白髪が一ぺん
に黒くなった話、肺病やガンが、祈りの
力で治った話、それらは枚挙に遑がない
程ある。

中には注射や医療で七八割快方へ向つ
ている患者の処へ押しかけて行き、祈病
して上れるといつて経文を唱え、あれは
わしが経文の力で治してあげたのだなど
の巧みに宣伝する要領のいいのも居る。
病氣になると誰しも気が弱くなる。そ
きれば一日も早く快方に向いたい。そ
で医療の力以外に、神仏の法力にすが
うとする。そこへ祈病師が、何かめらし
くあらわれ、いや死霊のたたりじや、こ

先祖の霊を祀らぬ野郎や、などといわ
れると大抵ブルブルと震つてしまふ。
そして手のつけられぬ大病人には道よう
す。たいてい、せん気血の道、足腰の
ため、九十%死なない患者に近ずいて病
治療をやる。そして、うまい具合に奇蹟を
あつわすのである。

実は私は一ヶ月はかり神経痛類似の病
を得て困つていた。八十%医薬にたよ
つていたが、ある人がマツサージがよいと
いうので、四、五日施術して、もう一、二
今までのマツサージとは、ちがって口に経
文を唱え、下り掌でホンホンを打つた。
であるが、大へんよくきくのであつた。
営業もなく親切に施術してくれるので大
変感謝したが、一しよに経文をとくえろ
というので、開口してしまつた。なまじ奇
蹟らしいことを云わぬので、良いのだが。

御礼

故和田春茂様御葬式の際香奠返しと
て、金一封御贈り下さいました。謹んで
御礼申上ります。バスターズ 佛教婦人会

矢野 矢野節子様
義兄 天田公夫様

四月廿七日(水) 廿六日(火) 両夜とも八時より

日活現代っ子

鈴木マヤシ 中山千夏 市川幸露

田代みどり 小沢あす子 小沢英次郎 桂小金治

四月廿九日(金) 八時 三十日(土) 九時半 BANDOLEIRO DE ELITE

松竹喜劇団地親分

伴淳三郎 芦屋三郎 大村崑比 榎本健一

五月一日(日) 九時 二日(月) 八時 TATUAGEM DA JUSTICA

東映 いれずみ判官

鶴田浩二 河原崎良一郎 藤 純子 佐藤慶

五月三日(火) 四日(水) 両夜とも八時

東宝雲の上団五郎一座

榎本健一 あちや子 新珠三千代 加東大介

五月六日(金) 八時 七日(土) 九時

新東宝 女体棧橋

三原洋子 羽山雪子 小倉茂 加藤大

五月八日(日) 八時 九日(月) 八時

LANCADA DELA FATALIDADE

土田三子 上村健次郎

松竹真昼の嵐

佐々木功 安井昌二 十四才以上

痛快、殺し屋殺し 女を張った男の勝負の激斗篇

ハストス短歌会報

ハストス短歌会では去る四月九日夜 宮中歌会始
に入選された信太千夏子(北原ユリ)さんの入選祝賀金
会を催した。当日は遠く聖市より酒井繁一氏北ハラ
より、田上みおは氏の特別出席あり、森重鈴羊開会
の辞、酒井繁一氏の祝辞、信太千夏子さんの挨拶があり
さやかな祝宴の後、歌会に移った。送歌を終えて酒
井氏より作品批評あり、有意義な集りであった。

作品一人一首

○群鳥のいまだ渡らぬ秋にして 酒井繁一

○空の広さの香だつことなし 森重杖夫

○おれは嫁のうなじのかほきさにおもい 北原ユリ

○鶏頭花の濃き紅は手ふれつつ 山室新太郎

○燈を消して幻想育つ闇中に 宮武勝甫

○息づまるまゝに句を言ふまに 土井はやし

○その表情萌す日なけむ張られし 森重半鈴

○席さえ拒みて佇まるる尼僧ら 石橋美津雄

○マツ箱振ればやせしき音をにこ 井上ふい

○保存せし蛇の鈴が鳴るなり 井上ふい

○新屋に移る日近し 看みろ 森重半鈴

○板間の隅に揺れる蜘蛛の巣 石橋美津雄

○癒え後の希聖切々語る義兄 井上ふい

○医師見放せる重患と知らす 井上ふい

○閉したる窓のすゝ間を渡れど 井上ふい

○光り綺なす部屋に帰れり 井上ふい

○有みし吾娘の理想を愛しみぬ 井上ふい

○かつての吾れの記憶にしあれば北原ユリ

○物干竿に干瓢わすがエシありて 異人に交りて住める邦人 田上みおは
○輪禍の友を見舞いに来りて軽傷と 知るとき言葉粗くなりゆく 加藤大

仙人掌 四月作品

町に住み通い百姓千草原 佐藤耕雨

朝より夕べ色濃し秋の草 宮崎北眠

秋草や厄除地蔵埋すもりて 佐々木南子

秋草や断崖にして一軒家 梶山米子

やや寒し靴のかかとの鉄の音 牛尾陽子

秋の草馬体ませそ一樹々人 青木桂子

蜘蛛の鎌の先なる花粉かな 柳屋すわ

かまきりやわか弁はっしと薪を割き 森重半鈴

句会御しらせ

五月一日(日) 夜七時

兼登 甘藷 秋耕 栗 通いて八句

同好士の御出席を希望いたします